国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

ガラス使用

856-10

源氏十七

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 856-10

ガラス使用

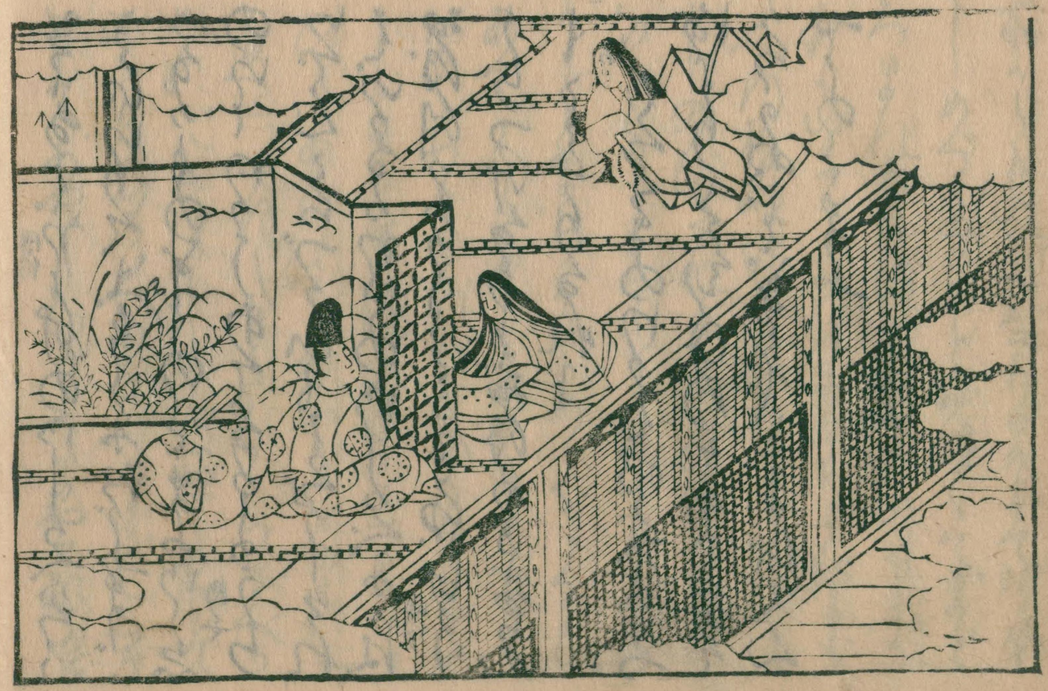
のぼりなて、これともしらをなりぶ。
いといたうやほまをなへれど、しらさ
ゆき海なれば、あなりしこや、一日め
し給しまやなりしまふまん。今
ハこの世のことをしひなへねば、げん
ぐこのおこなひもすてつれて
給へを、いかぐかかりなりしまし
つらんと、おどろきさらぎ、うち
しこつ、かたてよつる、いとなりと
きぐ、いとこなりなりさらべき
ものつくりて、よりせをする、かぢなど
まいるほど日くらくさしわがりね。
よしこしらしてかたりしなへば、
なきて取なて、そこかしこ僧坊ども
あらはよしなつさる、ぞ、はつぐ
らなりのしとに、なすじこしぞ

なれぞこるりしうしわくして、
きよげなるやらうなどほぐけて、
こぐらいとよしあるハなかん人の
もむかしとひなへば、ほともする
人、これなんなかし僧都ぬこの
ふくとせこもり給る坊よくぐる
する。心ぐづしき人もむなるか
にこそあなれ。あやしうも何まり
やつしかるかな。きくもこそもれ
などのなふ。きよげなるわらハなど
あまたしきて、おかなりむなり
などするもあらはよしゆ。うしこ
に女こそきなれ僧都ハよもさ
やうなれすへなりしを、いかなる人
なんとくらぐらふなりてのぞ
くもあり。なしげなる女ごども。ワ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 856-10
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 856-10

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 856-10

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 856-10

ガラス使用

おとなびたらんはめでたきことなるを
まゐて、えもいはぬさま海よりも海
さりなどするなどの給ひ、（内女房）さらばの
人はいかゞ成給へりしとせよかし
中なれば、（生）うちうちなづきて、御と
ようありなんとおぼしたり。ひぬ
なほうじまもさらにまゐまゐ。源
氏の君とはくらべ給へるに
きゝあはせしづきまゐ。（源）君ぞ
（内）本面ゐりまゐ。ひぐらしはかゝる
などゆゑし給へ。（内）いとうるはしきを
本ゐりとゝ。おぼしつゞけたり
おもしろし。えじ。まのたりとり
なることなどとゝせまゐ。（源）
（内）美しまへ。（内）おぼりなどもなるべ
きものにそあめれ。（源）とゝなひの

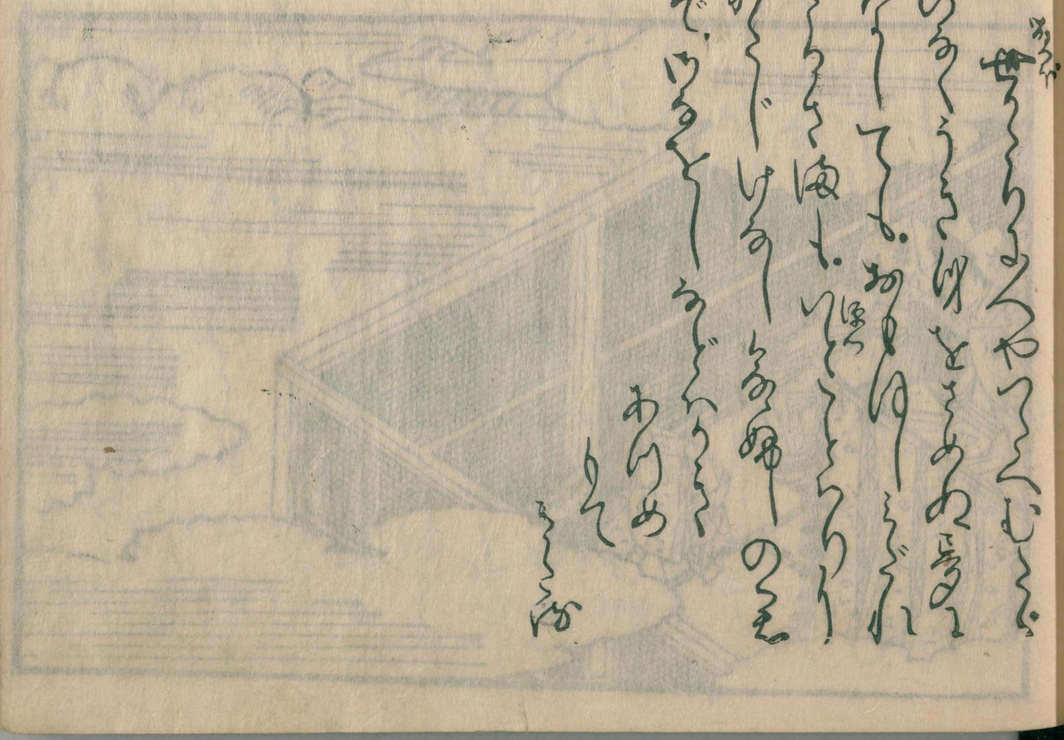
らうはつゐりて、おほやけはまろ
しめきれざりけることなりと
がりの給ひ、（光大臣）おほやけのまつり
あひまて、（光大臣）かくよもすがらあ
まひつれど、思びしらぬありさま
のいぐとゝしたゞかりてなんのどや
かに一二日うちやすみまゐへとて
やがて御をくりつかうまつらんと
中まゐ。（源）さしもおぼさゞどひら
されてくまゐてまゐふ。ひが御車に
のせなりまゐく。男づからはひさ
いりてまゐくまつれり。もてかし
づきゆくまゐつる御ぞくのあん
まるうとそ。（源）さすがにんぐるしく
おもはしかる。女房もおろしまゐひ
らんとゆづかひしまゐてゐしく

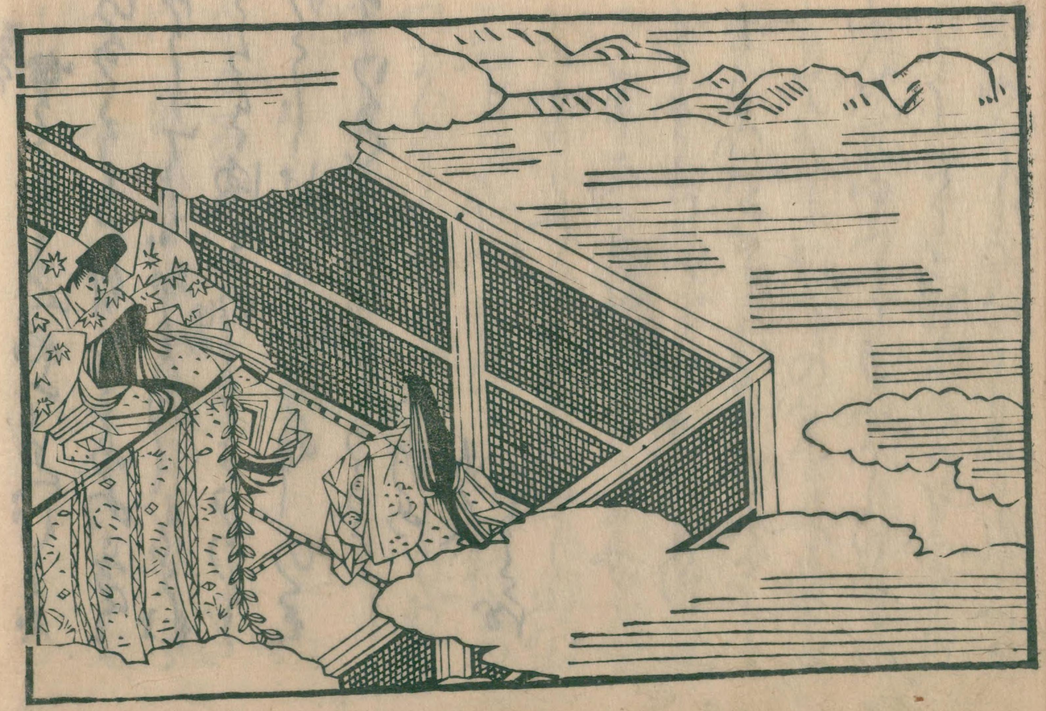
国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

ガラス使用





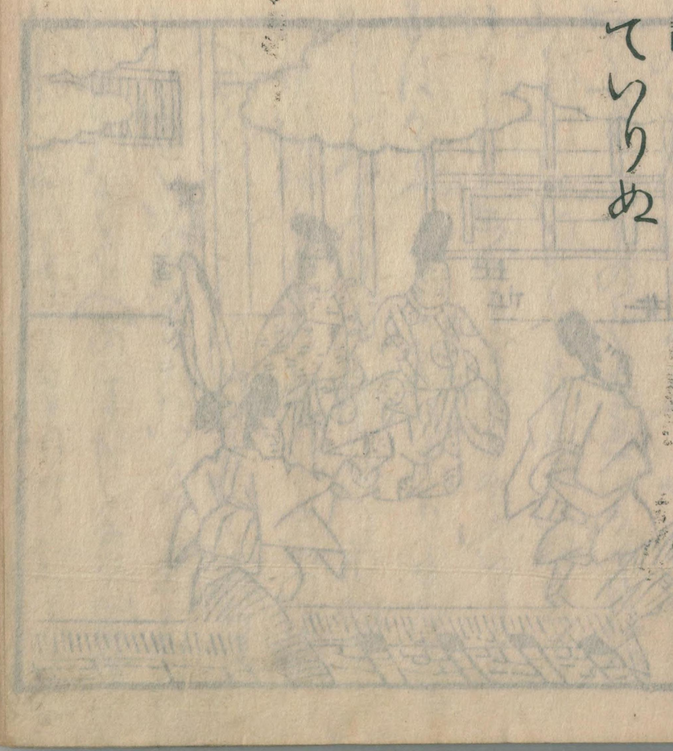
国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 856-10

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10
ガラス使用

十月に朱雀院(すざくゐん)の行幸あるべし。
まひ人などやむごとなき家の子ども
上達部殿上人どもなどもその
方につき〴〵しきはみなえら
せ給へれば。みこたち大臣よりはじ
めてとり〴〵のざえどもならひ
給ふいとまなし。楽(がく)そうびともみて
ひゞきこそおとづれのかぜかなる。
みすもて。ありさへつゝうり
くればそこぞつゞきたすのこあり。
ゐならのある月のすゝのかげかすん。
つゐふむすしくみあへりすらく。
せんのたよりつゞきぬれどうずひ宮
まふるに。おほとのゝつま。女車此
とうの中まで者よりろあそばるよ
さうりしへてはやうすんぶさかき

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10
ガラス使用



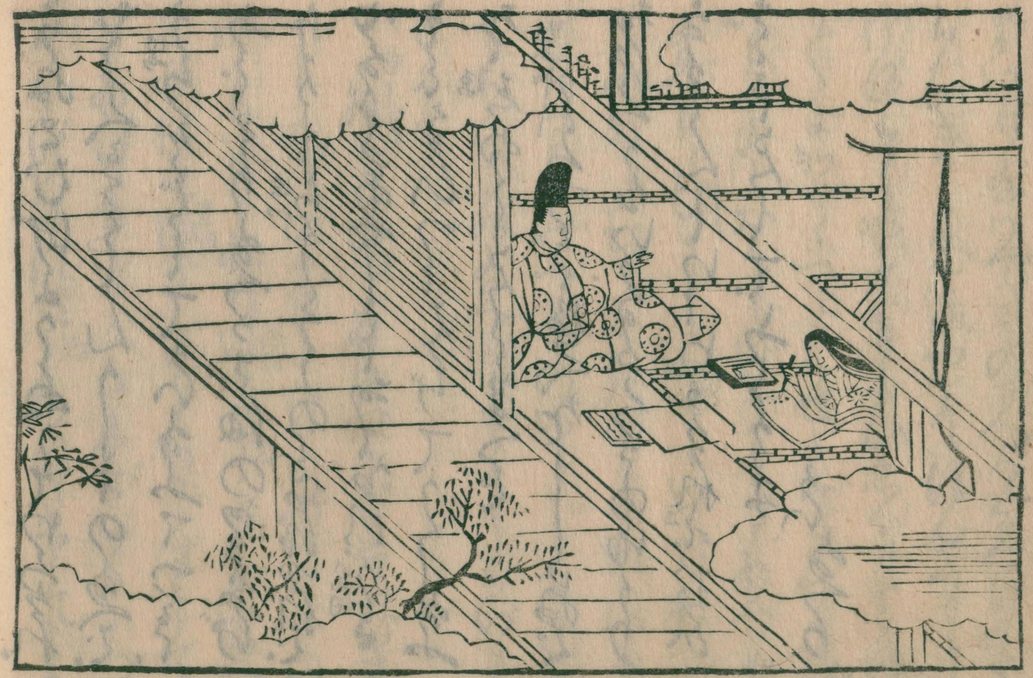
国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 856-10

ガラス使用

人ひとりまいられよりしとのまへ
だゆあたてしくて、今ふは
いとじんなくなん侍べきこゝやれ
けうせまゐんあれいかさ海より
きこえやんとのぼらう雅へて
さうべきよおくしまさだ、ども
うしも侍なんをいと思ひやり
なきほどのことに侍れだ、さふ
ちふんごくらしう侍るべし也
ゆゆれだ、よしのちよも人いま
いりなんりしとて、所車よせさを
まへだ、あさましういかさ海よ
りと思ひあへり、けうぞもおやし
くおぼしてないまふ、が納言所
ぞどもひきさげさ、こつりしも
よろしき衣きうへてのりぬ。

三条の院ハちうなれだ、まだおう
なしぬかどよおくして、よしの
ちいよ所くうさよをておりまふ。
けしのぞをいとうるしうふ、うさい
ごきておろしまふ、が納言
をいと美の心ちしとぐるを、
いかゞし侍るべきことあるとて
やをしてだ、そは心なり、所男づら
ハけうしなりつれだ、うりなんと
あらばをくりをんりしとの給ふ。
よしいくおりぬ、あはうにおさ
ましうじひも思ひけるしず、文
のおぼしの給ひしといふよ成
えてまべきにおりさ海よりそ
もかくてもこのもしきんでよ
をそれまへるがいとじきと思ふよ。

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 856-10
ガラス使用

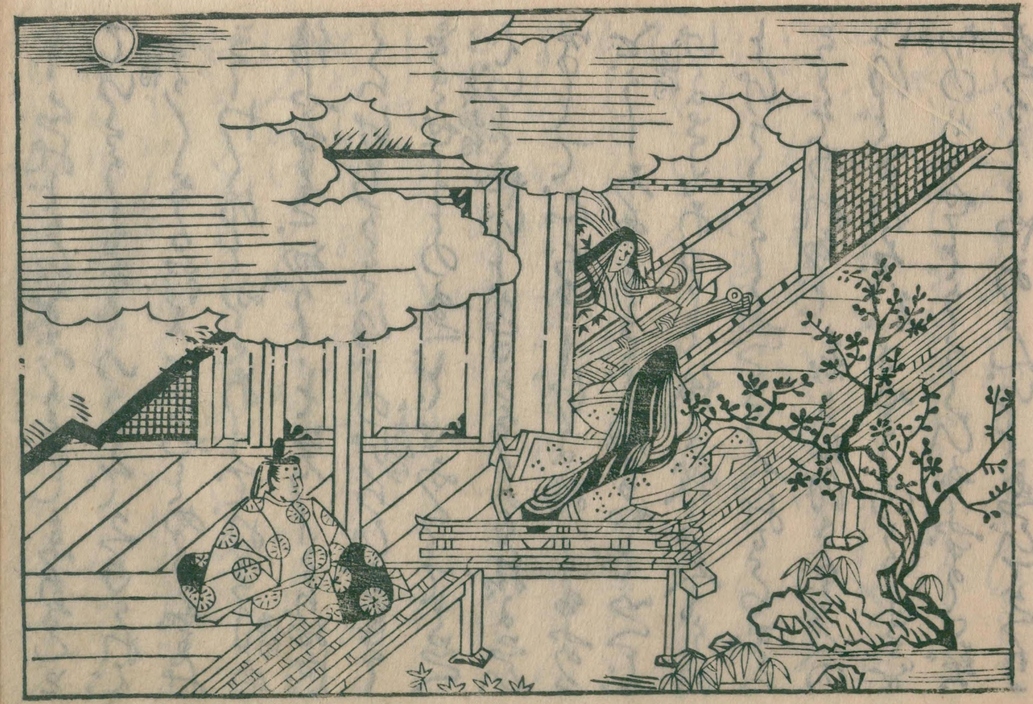


国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

ガラス使用

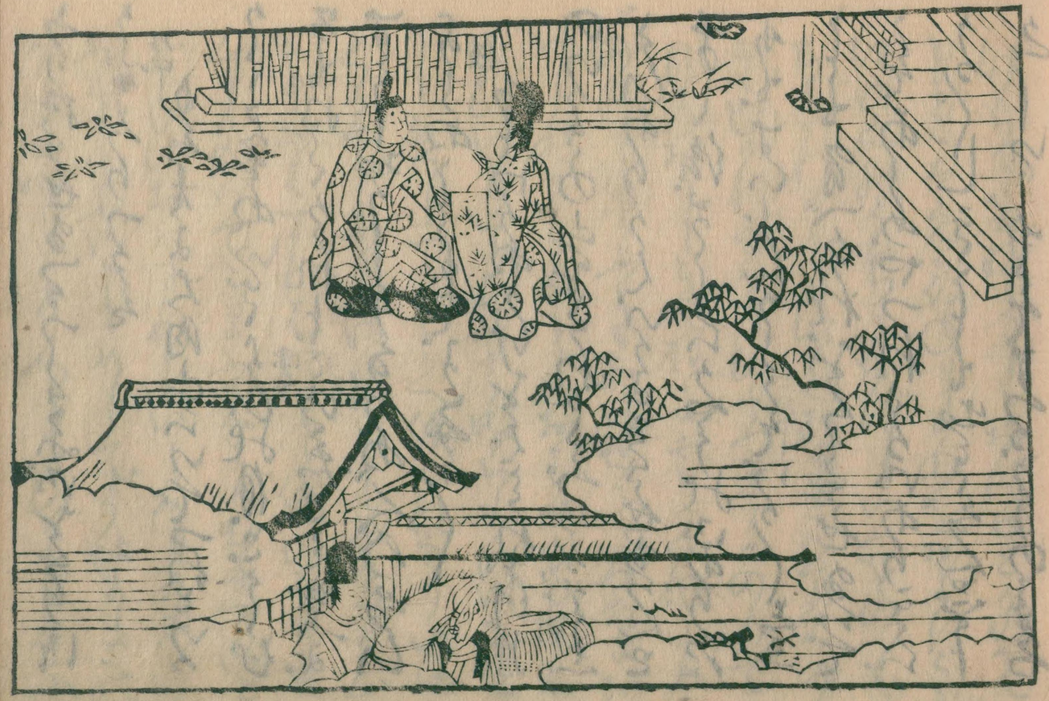
つれなうんづよきハことしへなう
情をくるしまめやうさなど。あまり猶
のほどしらぬやうに。さてしもすぐし
てぞ。名殘なくくげをれて。をとく
しきうたよけぐまりなどするもあれ
ど。のまひさしつるもおほかり。げよかれ
ゑ蟬をものゝおりしまれねたう
おぼしいづ。萩の葉もさりめぐる風
のこゝよりあるとれハ。ゆどろうしなふ
おりもまづし。ほかげのこぐれたりし
さ。ゆハまたさやうあくもこまほし
くおぼす。大かた名殘なきおいす
まをぞえしなりぐりける。左衛門のめ
のとして。ぢ北のあまれさしつぎに
おぼいたるがむすめ。大極の命婦とて。
うちにさふらぬ。わかむどをり。

左衛門ぞうがむすめなりけり。いとしたう
いろこのめるわかん人にて有けるを。
めしつかひなどしなふ。たちハ藤原の守
のめかくくぐりにけり。これハちゝ
のりとをけとかくもりうよふ。こひたち
のみこのすゑに向うけて。いこじうかし
ぐきなし。はすすめ。心ほそくてあり
ゐなるを。ことのつのでよかたり。
かれだ。あられのことやとてこひきて
なふんがくかたちなどふきうたいえ
しりとぐらず。かひそめ。ひとうとうも
てなしかぐだ。さぐきよひなどゆゑし
かくぞかたらひ。ゆる。さんをぞなつか
しきうたらひ。ぐとしつると。ゆかれば
ふつれ。いまひとくさやうこそ
あらんとて。我よきうせよ。ちゝんこの



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 856-10

ガラス使用



りのかりとおぼしてかげにつき
てこちらへれまつだ。以の中ぬかりかり。
ぬかつてこうちよりりろ大きに雨か
でまける。やがて大夫まもよらず。二条
院にもあしで。引まれまけるをいづ
ちなんとこゝなしでつれもりさ
あれどお　いつきてうらぐひかり。
あやしき馬にかりぎぬすがたれな
いがしろまくさかれ。ぶんしかた夜
とぬに。さすがにかうことかくに入
まひぬれど。ふもえすしひかる程
りのぬにさてついてこそるに。かつり
やせまふと思てまつかかり。源氏
これともえこつき給ひて。我と思
られじと。ぬきあしにあゆこのき
まふに。ふ中とよりて。

中務の君、ひぢとしびとは見けれど、[illegible]の
[illegible]をとりてゐられてこそ此
なほさうする[illegible]しまのるつりは
をば、えそひきまし[illegible]ぬるよのづら
うつれなくて、[illegible]
ずおぼゆ[illegible]
くいしなれんちしてすき[illegible]
げ[illegible]
てまろらぬ[illegible]
がに心ぼそく思ひ[illegible]
をありつる琴のもとをおぼゆ出て
[illegible]げ[illegible]
がくて[illegible]
ことふいとおかしうらうたき人の
さてとし月をかさねのこころんとは
[illegible]

人ぬもをてさんがるべりや、ひがんも
さ[illegible]
この[illegible]
まきにさくいはずしあひてんやと
なまねうう[illegible]
[illegible]
べし、いづれもく[illegible]
[illegible]
も有りなさやうなるすまひする人
[illegible]
[illegible]
なしなどして心ぐせをしいりそなお
[illegible]
しとてもいとうあまりもしれぬ[illegible]
らんを、心づきなくひろびろと
中ねはまいてんいしれしより例の

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10
ガラス使用

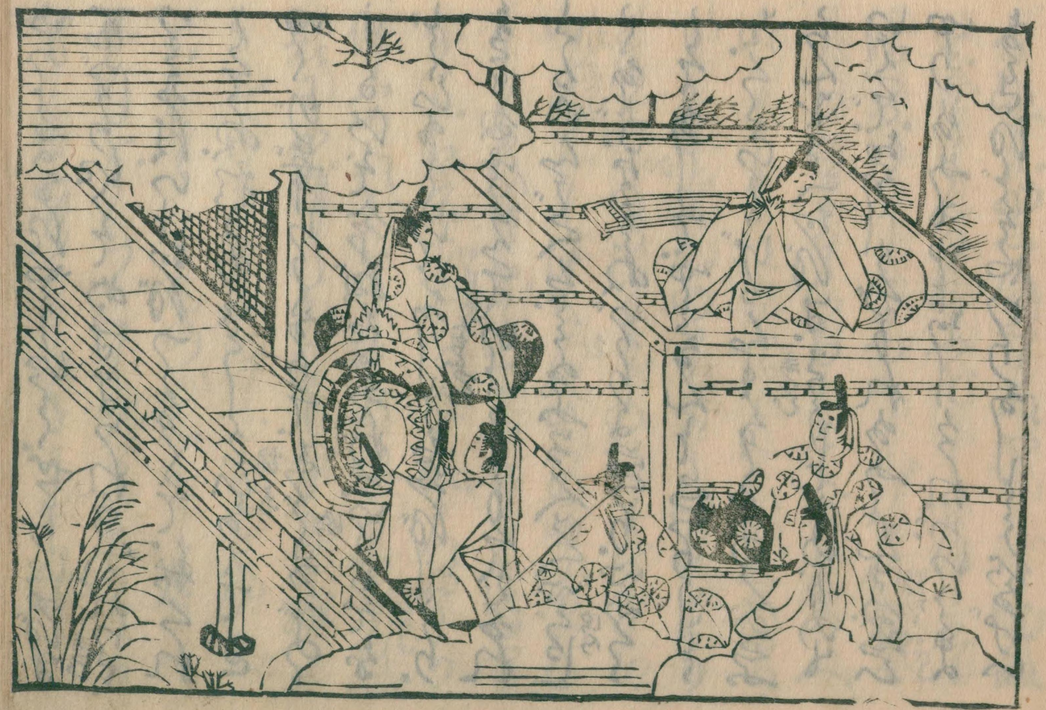
らひ給なをよにある人の有さ事を
たゞくなるやうにて、中あつめ、こゝ
ろめ給くをのつきなつるをさうじ
しきよひのなどにくらなきつゐでよ
さる人そとゞかり、中しいでこりし
にかくわざとが申しうのなひわれば
なまゝまづらしく、姫君の御有さ事を
まつかりしく、よしめれなどもあらぬ
をゆくなるみちひきまいとおしき
ことやうしなんとしひろれどきみの
うくまめやうよのなふよ、中いかざん
もひがくしうるべしぢこんと此おん
しけるおりまゞにふりにうあらり
とて、ゑなひ中ゆる人もなりけるを
まして今ハ海芽わくる人もあと
こしうるにかく世まめづらしき此けハ

ひのもり白いくるとゞなまま女ぢらな
どもしきまけてなをやしなへや
そぐのうしなれどあさましう物
つゝしなふ心まくひくふるまゝも
いれなりぬ物なりなる梅いさりばさ
つまめぐらんおりよ、おぞしに中し
なりんほどにぐまつかずいさてもや
しぬかしまくさるべきまてかりにも
おくしおよりんをとゞめなふべき人
なしなどあぐめきこゝろいやりぬ
そうちしひでちこゝろふもうること
などもいんざりそり、いと月本日よい
ゐるまでおくこゝ月の心りとなれ
よほしの光ゞりさやけく、松林
すゑふく風のとしんぼそくて、い
まし（書稿）へのことゝうちなれなど

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 856-10
ガラス使用

だゝうしかどさしてこそ見え給はんと
ののかずまことかどもじんなうおもひ給へ。
としごろてあなかしこさてはかる
ものかはかいらのもかどかいしよくのひ
すしてふかきまのさらすら隙がきよ
うらいつのくさしてはさてねうち
をきひよつくろふいとつきすげな
ありしかれどかうやうのくにあらは
らんぢ人あしか。善ありもとりあき
つまうれだる梅のうらいふかさあやう
ゑてうとせてく御しあきめたとぶら
御いへ人すぢかさりしまいりつく。
夕顔とひしる猶すらはうさ人二
三人あるはよふめくられあ所の程
とゆりし見御なにひ随して心げさう
しあつらふろさきはずまりく

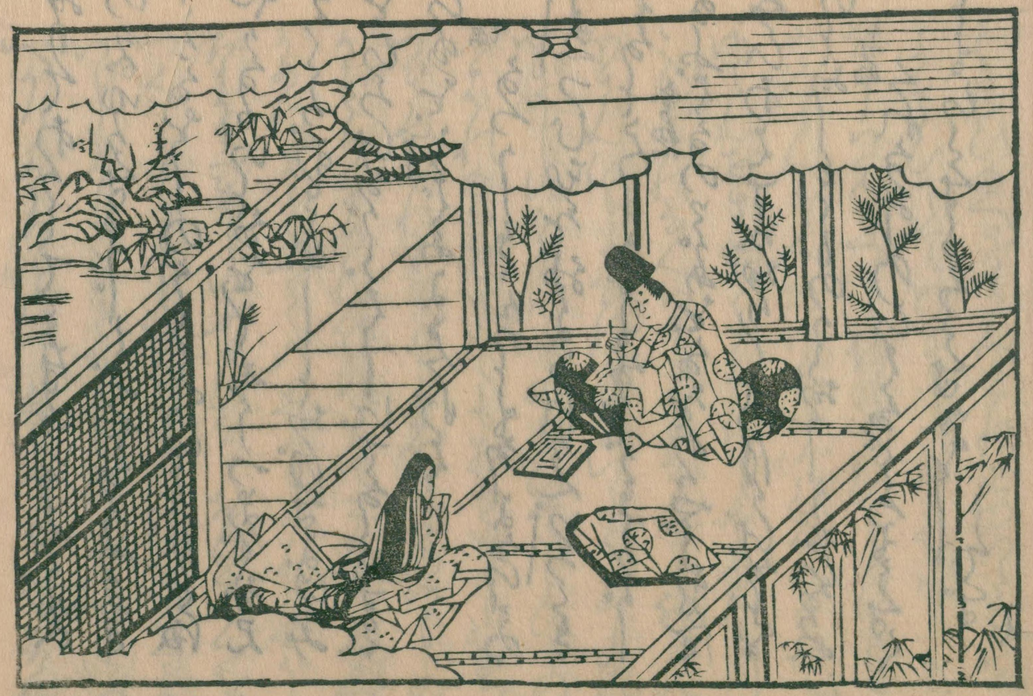
はくらひゆゆれん。いろじしるさかみ
のんげそうもあくておろす。御よきる
いとつきせあくはさ書をとうちしのひ。
ようゐしまつる。はけそらいつゝしう
をさし給ひててうしらん人にえきせ
めたうのあくあつまうしさりけり。
あるいと御しと女御はせしどくぢお
ほとなれ御しまのつとぞうしろやす
う。さししすぢくるしとかんてなり
あうじとせひろきわかつつよにせあ
られなるつゝさりしにはべらし
きん氏ゆ御せひやいてうんなとや
すうしぐせひぬうら。源らいんのはや
どもと御はをくざれくつかつにはやう
のよういみよりいこよおかう御ていろ
し、とあはりわくらふ。まうとうそぐの



らん。さりとていかゞいはん。われさりと
もんながうたんそしむと思しなす
此心をしらぬだ。あつむ しこまれいかゞう
ぞなげい給ふる。おしゞ 大大ト 取よいりて
まりでなふよ。ひかれなりて。たなま
おしましぬげ母のことを。けかあり
とおもはしさ。ゝ遅あつまりて寄ひ
をのくまひどもなしひなを。そのうち
のことはく。りのくまぞつぬよりも
かしかゝしくてうくゞいどこつ。例
のはあそびなしず。たびちつき。さ
くらちの笛などの。おほゞ心を唱あ
げつ。ゝ無いことをさへうこんのしに
まろげしよせく。ゝもづかしうちな
らし。あそびおはさうす

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 856-10

ガラス使用

856
10

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 856-10

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 856-10

ガラス使用